

夢や目標をもち 互いに響き合う子どもの育成

学校教育目標	夢や目標をもち 互いに響き合う子どもの育成		
a ミッション	I 子どもと教職員が、生き生きと目を輝かせ躍動する学校づくりの推進 II 深い学びの実現を目指したコミュニケーション能力の育成	a ビジョン	①自ら考え学ぶ子どもが育つ学校 ②互いのよさを認め合い、共に伸びる子どもが育つ学校 ③あいさつと歌声が響く学校 ④学校・家庭・地域がつながり、子どもを育てる学校

尾道市立日崎小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画					
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	k 二次評価			m 改善案				
					達成	達成	達成		イ	ロ	ハ					
資質・能力の育成（コミュニケーション能力/自己理解・自らへの自信） 学び（知）の基礎基本・生き方（徳・体）の基礎基本	【将来の夢の実現のための土台作り】 主体的にコミュニケーションをとろうとする児童を育てる	外国語科・外国語活動の授業を中心に、他教科と関連付けながら「聞くこと」「話すこと」を指導していくことを通して、主体的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。	○児童アンケートで、自分の意見を相手に伝えるように工夫して話している、友達の意見を自分の意見と比べながら聞いていると答えた児童の割合の平均 ○教師の見取りで、授業の中で1日1回は対話を取り入れ、その対話に対し肯定的評価をした割合の平均	80	77.1	83	104%	A] 結果と課題の説明 ○「自分の意見を相手に伝えるように工夫して話した」という質問に肯定的な回答をした児童は、83%（1年85.6%、2年76.7%、3年83.3%、4年64%、5年98.1%、6年90.5%）。「友達の意見を自分の意見と比べながら聞いた」という質問に肯定的な回答をした児童は、83.2%（1年84.6%、2年77.9%、3年89.3%、4年65.6%、5年97.6%、6年84.5%）だった。7月の結果と比べて全体でどちらの項目も5%以上向上している。児童も対話に対する意識が高まっており、伝えたり聞いたりすることの質が高まってきていると考えられる。しかし、学年間で大きく差があるためその差を埋められるように来年度の取組を考へていく。 ○教師対象に行った「授業の中で1日1回は対話を取り入れ、その対話に対し肯定的評価をする」という質問に全員が肯定的な回答をしている。授業に対話を取り入れることはできている。しかし、その対話の内容や態度の質を高めることはまだ十分ではない。そのため、対話の量だけではなく、質にこだわって指導をしていく。			3			○コミュニケーション能力を高める取り組みは長年見ている中、いつもとても頑張っていると思います。児童にどうしてこのような活動が必要なのかをもっと具体的に伝えてもいいのかもしれない。（成功例・失敗例等） ○自分の意見を工夫して話すことは、まず自分の意見が自分の中で分析されていない、質問等にも答えられず、話も広がらない。自分の中でどういう質問がくるのかと想定しておくのも大事だと思います。畏まったものだけではなく、くだけた感じの対話を行うのも良いと思います。	○学級間で取組や成果に大きく差があるため、その差をなくしていきたい。そのために、学校全体で研究の方向性を再度考へ直し、目指す児童像をもう一度全体で捉え直すことができるようにする。 ○また、今年度は教科の絞らずに対話に焦点を当てて研究をさせていただいて来年度はある程度教科をしぼって、教科の本質を意識した授業改善を行っていく。
	【人間関係形成力の土台作り】 相手を思いやりつなごうとする児童を育てる	児童の長所や頑張りを見つけて紹介する取組を通して、相手を思いやり、つながろうとする心情を育成する。	○児童アンケートで、「友達のよさを見つけて、自分に活かそうとすることができた」と回答した児童の割合 ○教師の見取りで、授業の中で1時間に1回は、全体に肯定的評価を伝えることができた割合。	80	67	77	96%	A	「友達のよさを見つけた」という質問に肯定的に答えた児童は80.8%（1年88.1%、2年生75.3%、3年生92.2%、4年生64.1%、5年生99.7%、6年生85.7%）、「友達の良さを伝えよう」とし、積極的に答えた児童は73.2%（1年90%、2年生99.6%、3年生82.4%、4年生41.6%、5年生97.1%、6年生67.8%）だった。児童の自己肯定感をあげることは成功したが、高め合える学級集団を作っていくことには課題が残った。 ○教師がしっかりと児童の良さや頑張りを肯定的評価することで、児童同士もお互いの良さや頑張りを認められるようになってきた。しかし、クラスによって偏りが見られた。また、走る、整えるなどの規範意識の低さ、相手を思いやった言動がまだできていない児童もいる。改めて伸ばすこと基本とし、守るべき規律を教員で共有し、統一していく必要があると感じた。			3			○他人の長所を認め、我が身に取り込んでいくのはなかなかハードルの高い行動であるが、自己肯定感を高める機会になるよう繋げられる教材があるとよいと思います。	○学年間やクラス間で偏りが大きくあった。友達の良さを認め合い、高め合っていくことについての具体的な方策や取組を発信することができなかった。教師サポートを感じる児童は多いので、児童同士で高め合い、さらによりよくしていきたいと考える主体的な児童を育てていく。
	【健康な体づくり】 主体的に健康な体づくりをする児童を育てる	縄跳び等の体力を高める取組や食育・保健指導を通して、主体的に健康な体づくりができる児童を育成する。	○児童アンケートで、体力づくりを楽しんでいる、進んで健康な体づくりをしようとしていると答えた児童の割合の平均	80	90.4	91.4	114%	A	○児童アンケートの達成率では、7月が90.4%、1月が91.4%といずれも目標値を達成することができた。			3			○限られた空間・時間で体力づくりも難しいと思いますが、手軽に始められるなわとびは児童にとっても楽しくできているのではないかと思います。食事の大切さが理解できる食育のお話もよいと思います。 ○体を動かすことが嫌い、という子に対しての手立てが難しいですが、「ダンス」「色々な道具を使うスポーツ」等、興味がわきそうな種目を行うのもよいと思います。	○コロナ対策等で今後も学校全体で揃えることは徹底しつつ、児童がその目的を理解し、自分で考えて判断していけるよう、指導を継続していく。また、今年度の取組をさらに充実できるように、取組の目的や児童の課題を教職員・学校保護者間で共有し、組織的・継続的な取組にしていく。
働き方改革 家庭生活と仕事の両立	【これからの教職員のための業務環境改善】 主体的に業務改善を進めワークライフバランスに挑戦する	入退校記録をもとにして、自分で自分の仕事量を主体的にマネジメントする資質・能力を高める。	○月間超過勤務時間45時間未満の達成率（県費負担教職員31名中）	90	70.9	93	103%	A	○8月の達成率は100%、9月の達成率は93.5%、10月の達成率は93.5%、11月の達成率は93.5%、12月の達成率は90.6%、1月の達成率は96.7%、8月から1月までの合計達成率は92.9%であった。 ○平日は18:30、水曜日は17:30までに退校する職員室の風土作りが更に進み、職員同士の声かけも増えた。			3			○先生方の仕事量の多さには目を見張るものがありますが、声をお互いかけながら活動されているのは良いことだと思います。持ち帰る仕事量も減少するよう願っています。	○本年度できた早期退校を心がける職員室の空気感を次年度も引きついでいけるよう日々声かけを行うとともに、より風通しの良い職員室を目指す。 ○仕事の進捗や締り切り等が確認できるよう見える化を進める。